

阿波おどり未来へつなぐ実行委員会設立総会・第1回実行委員会 議事録

日時：令和4年4月8日（金） 15時～17時

場所：徳島市シビックセンターさくらホール（徳島市元町1丁目24番地アミコビル4階）

出席者：委員26名（内オンライン参加3名） オブザーバー3名

【設立総会】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 議事

【第1号議案】

○（仮称）阿波おどり未来へつなぐ実行委員会の設立及び会則について

（事務局）

- ・（仮称）阿波おどり未来へつなぐ実行委員会の設立及び会則について説明。

（鈴江委員）

- ・徳島県阿波踊り協会の名前がなかったが、実行委員会に参加しないことの理由を説明していただきたい。

（事務局）

- ・県協会に実行委員会の趣旨を説明し参画の依頼を行ったが、運営主体である実行委員会に阿波おどり連が参加するべきではないとの理由で参加は見送るという回答だった。

（山田委員）

- ・阿波おどり振興協会と徳島県阿波踊り協会は車の両輪のような形の中で徳島の阿波おどりを半世紀に及んで支えてきた。
- ・実行委員会にはおどり連は参加すべきではないと参加を見送られるとあったが、それで引き下がるのではなく、県協会の意見を伺わなければより良いものにならないので、再度協力要請をしていただきたい。

(事務局)

- ・徳島県阿波踊り協会にはもう一度説明に伺うことしたい。

(中村委員)

- ・振興協会と県協会の両者に実行委員会に参加いただき、意見をいただいて市民が喜ぶ阿波おどりしていければと思うので、お願いしたい。

(京野委員)

- ・県協会に実行委員会への参加要請を行ったのか。また、断られた理由はあるのか。

(事務局)

- ・実行委員会の準備段階で振興協会、県協会に参画の依頼に伺ったが、県協会からは運営主体の中に入るの難しいとのことで、参画を断られた。

(京野委員)

- ・明確な理由はあるのか。

(事務局)

- ・運営主体である実行委員会に踊り連が参加すべきではないという理由である。

(山田委員)

- ・県協会は徳島新聞社(県協会の事務局)という立場の中で、阿波おどりに取り組んできた高いノウハウがあると思っており、踊り連だから参画すべきではないという理由は初めて聞いた。
- ・県協会には実行委員会に参加いただくべきであり、再度参画依頼いただきたい。

(越後委員)

- ・実施主体が誰なのかという議論と思うのだが、実施主体になる＝予算に対して責任を持ち自分で資金を調達しなければならない。
- ・阿波おどりを観光の資源として見るのであれば、県や市が負担するべきであり、逆に市民が主体であれば、自主運営するパターンがあるが、今回はこういったゴールを見据えてやっているのか。

(杉原委員)

- ・阿波おどりの実行委員会の経緯について、徳島市観光協会会員から委員に任命され、阿波おどり運営をしていたが、遠藤前市長がダメということで、我々は爪弾きになった。その後、遠藤前市長が自ら運営すると言って結局失敗した。
- ・失敗して民間委託となり、東京の会社に委託となった。コロナの影響があり、旧実行委員会は解散することとなった。
- ・行政が主体となってやろうとして失敗した事業ということが根本にあり、市民で立ち上げなければいけないという声がやっと上がってきたところである。
- ・阿波おどりをやっている人たちを交えて話をしなければ先に進まないの、多くの阿波おどりに関わる人たちに参画してもらう事がベストだと思う。

(佐々木委員)

- ・県阿波踊り協会は運営主体にはなれないとのことだが、オブザーバーとして実行委員会に参加して意見をいただくということは検討したのか。

(事務局)

- ・県協会には、正式な委員としての就任依頼を行ったところであり、オブザーバーとしての要請は現時点ではしていない。
- ・実行委員会の中でも正式な委員として再度参画依頼をしてはどうかという意見もあるので、そういった点も踏まえて対応したいと考えている。

(京野委員)

- ・過去の民間委託の業務委託料はどの程度だったのか。

(鈴田委員)

- ・ 県協会については、委員の皆さまから参画すべきだという意見をいただいたので、事務局でもう一度参画を依頼していきたいと思うがどうか。

(異議なし)

(事務局)

- ・ 先ほどの京野委員からの民間委託の委託料について、実行委員会から民間事業者への委託料は発生しておらず、阿波おどり事業のチケット収入等で、賄って頂く形での委託形態となっていた。

(越後委員)

- ・ イベントをチケット収入だけで賄うことはおそらく難しいことで、大きなイベントでは平均3000万から5000万程の経費がかかる。
- ・ それをどう集めていくのかが運営の仕方であり、協賛というものは広告スペースの上限があり、比例して人件費が上がるので大体三分の一程しか集まらないのが統計学的に言われている。
- ・ 必要経費をチケットや出演者の出演料から賄うのが一般的である中で、そのような形の委託をしたということは残りを市が全て負担する見込みだったのか。

(事務局)

- ・ 次の議案の際に回答させていただければと思う。

(杉原委員)

- ・ 現在栈敷席はどこが所有しているのか。

(事務局)

- ・ 徳島市が所有している。

(事務局)

- ・ 県協会への参画依頼については、改めて事務局等で調整し、再度依頼したい。次回の実行委員会で報告できればと思う。

- ・阿波おどり未来へつなぐ実行委員会設立の議案について、賛成の方は拍手を持って承認をお願いしたい。

(一同拍手)

【第2号議案】

○阿波おどり未来へつなぐ実行委員会役員の選出について

(事務局)

- ・役員選出について、会則第5条において、実行委員長1名、副実行委員長2名、監事2名を置くこととなっており、実行委員長の選任については委員の互選により選出をすることとなっている。

(森浦委員)

- ・私は徳島商工会議所の寺内会頭を実行委員長に推薦したい。
- ・阿波おどりは最大の観光資源、経済、地域の発展にも繋がっている。その中で中小企業等を日頃先導している徳島商工会議所は県内最大規模の経済団体とと思っているので、寺内会頭をお願いしたい。

(その他に推薦なし)

(事務局)

- ・実行委員長への寺内委員の選任について、承認をいただけるようでしたら拍手を持って承認をお願いします。

(一同拍手)

(寺内実行委員長)

- ・就任挨拶

(事務局)

- ・寺内実行委員長より、副実行委員長の選任を行います。

(寺内実行委員長)

- ・一人目は昨年度阿波おどりネットワーク会議、設立準備会議の構成委員である徳島市文化振興公社理事長の弘田委員にお願いしたい。
- ・二人目は同じく設立準備会議である行政機関として徳島市経済部長の鈴田委員にお願いしたい。

(事務局)

- ・委員の皆さま拍手をもって承認をお願いします。

(一同拍手)

(弘田副実行委員長)

- ・就任挨拶

(鈴田副実行委員長)

- ・就任挨拶

(事務局)

- ・寺内実行委員長、監事の選任をお願いします。

(寺内実行委員長)

- ・一人目は、徳島大正銀行法人推進部長の天野委員にお願いしたい。
- ・二人目は公認会計士であり、昨年度徳島市が実施した阿波おどり事業運営体制等検討委員会の委員をされた佐々木公認会計士事務所の佐々木委員にお願いしたい。

(一同拍手)

(寺内実行委員長)

- ・以上で設立総会を閉会とする。

【第1回実行委員会】

1 開会

2 議事

○2022阿波おどり事業・収支計画（案）について

（事務局）

- ・2022阿波おどり事業・収支計画（案）について説明。

（杉原委員）

- ・シャトルバス収入420万円となっているが、一人片道200円として、延べ人数で2万1000人を見込んでいるが、徳島市観光協会の時にシャトルバスが吉野川河川敷を使っていたおり、シャトルバス片道300円でないと運営できないにもかかわらず、片道100円だった。
- ・初めから赤字ありきのシャトルバス運営をするのか。片道300円にした方が収益は上がらないにしてもプラスマイナスゼロくらいになるのではないか。
- ・栈敷席の広告について、過去に一部の広告料だけ少し高いということで、南内町演舞場の広告看板が一気に無くなった時があった。製作費は1回目だけのはずが、毎回製作費を取られていたことがあり、それが理由で広告看板を出すのをやめてしまった。
- ・有料演舞場にタレントが入った企業連が踊り込んでいる。広告を取るために企業連を入れるというのはわかるが、有名連との間でコマーシャルゾーンの様なものを作り、分ける必要があるのではないか。

（事務局）

- ・シャトルバス運賃については、片道200円で案として出しているが、事業計画では徳島県と徳島市からの補助金収入がある。
- ・シャトルバスや無料栈敷等に要する経費に見合うということで、補助金を頂いているので、片道200円と補助金の収入で賄うということで、シャトルバス運行を組み立てていくように考えている。

（杉原委員）

- ・結局それ（補助金）で赤字を埋めるということですよ。

（事務局）

- ・そう考えている。

(杉原委員)

- ・初めから赤字を想定しているということか。

(事務局)

- ・収入部分としてお客様から頂く200円と補助金でシャトルバスを運行するという考え方をしている。
- ・広告の発注方法について、今年の阿波おどりで演舞場内の広告をどうしていくかは、検討中である。
- ・企業連について、各演舞場への申込方法についても現在検討を進めているところであり、今後の実行委員会でお知らせしたい。

(越後委員)

- ・有料座敷を減らすということだが、座敷は予め人のスペースが確保出来るので逆に増やした方がいいと思う。

(事務局)

- ・有料演舞場の座敷については、今年は有料演舞場2カ所で進めさせていただいている。席数に関して、従来の席の設定では、隣の人同士で肩が触れ合うような間隔で密接に近い様なレイアウトであった。
- ・感染症対策の観点から、お客様同士の間隔は一定程度を持たせた方がいいだろうという考えのもと、従来の席数の60%ぐらいの間隔を設定している。

(越後委員)

- ・そういった対策をするのであれば座敷席はもっと増やした方がいいのではないか。
- ・入場収入が4日間あるので一日あたり10万人の来客を見込んでいるということだが、一般のお客様はどの程度呼ぼうとしているのか伺いたい。

(事務局)

- ・有料演舞場の座敷の数について、今年度は新しい実行委員会のスタートということで、今後3年間の計画の中で従来の形に戻していければと考えている。

- ・ コロナ禍でお客様の来場者数というのは、回復傾向にあるが、見込みが難しい状況である。

(杉原委員)

- ・ 遠藤前市長の話に戻るが、阿波おどりがガタガタした衝撃は我々商業者にとってもの凄く大きなものだった。当然ながら、旅館業界もかなり被害を被った。
- ・ 公式発表の旅館等利用の10%減とのことですが、実際私が調べたところによると、飲食店で大体6割から7割減ということでした。
- ・ 高円寺阿波おどりを中心とした東京阿波おどりが発達し、関東へ行くと阿波おどりは千葉県(安房国)の踊りだと勘違いされている方が多くいるので、もう一度観光関連のアピールの仕方というものを見直す必要があると思う。
- ・ 踊り子たちが踊っている無料の演舞場の設定がありますが、それ以外にも例えば駅前ポッポ街の商店街がフリーゾーンになっており、自由に踊ることが可能なので、いつも有名連や学生連に踊り込みをしていただいている。
- ・ 更衣室あるいは控室として商店街の空き店舗を開放しており、安価で日貸ししているので、阿波おどり連の方に利用頂けたらと思う。

(山田委員)

- ・ 広告収入について、スポンサーが広告看板出すと、当然収入に入れるべきだが、この数十年、入っていないという状況が今まである。最初に製作費込みで看板を作り、その後同じ看板を毎回使い回すにも関わらず、毎度製作費を取られるということで、スポンサーが取り止めたことは事実としてあると思う。
- ・ シャトルバスに関して、これは明石海峡大橋ができたことをきっかけにシャトルバス運営事業をやってきました。最初からマイナスの部分で計上しているのではないかというお話が杉原委員から話があったが、その通りであり、それをずっと訴えてきている。
- ・ 事務局の説明で無料演舞場やシャトルバスに対する補助金も出ている。過去の観光協会の時からわかりやすく説明すると、無料演舞場に2000万円、シャトルバス事業に1000万円程の補助金が毎年出ているが、これに対する事業費は6000万円である。シャトルバス420万円というのは受益者負担の部分であり、これが片道100円の時もあったが、毎年費用は必ず2600万円程かかっている。それに対してシャトルバス事業の補助金は1000万円しかないなので、毎年1000万

円以上は赤字で計上してきている。それが10年以上積もったら3億円の赤字になる。そのことをずっと訴えてきたのにも関わらず、全く度外視して、観光協会が潰された部分がある。

- ・ スポンサーの企業連も必要だと思うが、旅館組合の森浦委員も非常に高いウエイトでの考えだと思う。例えば徳島県の旅行業、旅館組合などの会をもっていただきたい。徳島は普段5000円～6000円で泊まれるところがお盆は2万5000円、3万円などがざらにある。そういう不誠実な運営ではなく、ある程度認められる常識の範囲であるような運営の協力を求めて、例えば交通手段であれば、旅行者で振り分けをするなどすれば、実行委員会の中で斡旋をしながらやっていくようにすれば、ある程度正常化されるのではないかと思う。
- ・ にわか連について、コロナ感染対策がどのようになっていくか未知数ではあるが、今の状態の中でにわか連を実施しないという判断は早々に決定しすぎだと思う。一般の方に楽しんで踊りの体験もして頂き、県外のお客様や一般のお客様を含めてやっていこうというのに、にわか連は未来へつなぐ阿波おどりの発展について欠かせないひとつだと思う。感染状況が好転していれば、両国演舞場なども含めて新町橋など今までのような形でにわか連の実施について、再考していく余地があるのではないか。

(京野委員)

- ・ 阿波おどりは雨天中止など天候に変わるの、例えば一日演舞ができない状況の場合にはどのような変化をするのか伺いたい。
- ・ 民間委託への委託料は発生していないということだが、入場収入から何%か取る予定だったのか。

(事務局)

- ・ 民間委託では、チケット収入だけではなく、阿波おどり事業の収支全般を民間会社が担い、収支の責任も民間事業者で担うことになっていた。赤字になっても黒字になっても実行委員会に対して固定納付金として、500万円を納付するという契約だった。

(京野委員)

- ・黒字になればバックしてくれる、赤字になれば補填してくれる、大変いいお話だと思うのだが、上手くいかなかった理由は何なのか。

(事務局)

- ・正確な契約内容として固定納付金の500万円と黒字の2割を変動納付金として、実行委員会に納付するという契約であった。

(京野委員)

- ・赤字が出た場合は補填してくれるので、いい話ではないのか。

(杉原委員)

- ・民間会社の考える方向性になり、市民のものではなくなる。それが本当にいいものか悪いものかわからない。

(京野委員)

- ・そこが議論になって市に返った方がいいということになったのか。

(杉原委員)

- ・そうである。

(京野委員)

- ・シャトルバスはどれくらいの運行をしているのか。片道300円にするというのが適正ではないのであれば、何かシャトルバスの料金を下げたまま運行できる案が提示できないものかと思う。現在はどのような協議をしているのか。

(楠委員)

- ・予算の中の約半分がバス代で、あとは運営費ということで理解いただきたい。バスが1日10万円程、掛ける30台程、かける4日間で1200万円、残りの分に関してはガードマンであったり、色々とテントを設置する費用として必要である。
- ・昨今事故が多く発生しており、法律で最低でも1時間の金額が決まっているので、そこは理解いただきたい。ただ、運営方法を考えて、もう少し効率的に動かすこと

はできるかもしれない。例えば12日は多いけれど、15日はバスの台数を少し減らす協議はできるのかと思うので、運賃に関しては理解を頂ければと思う。

(京野委員)

- ・4日間開催のところシミュレーションで、4日が3日になった場合どうなるかというところですが、今度ご提示いただけるのか。

(事務局)

- ・現時点では数値的な資料は持ち合わせていないので、次回お示しできる部分はさせて頂いていただければと思う。

(岩田代理委員)

- ・こちらの案からは、日本全体にPRするという意思をあまり感じられないので、もっとPRした方がいいのではと思う。i-GIP-TOKUSHIMAは全国規模の団体であり、今日ではロサンゼルス、マレーシア、ロンドンでもプロジェクトをしている団体になりである。大学生、中高生向けの発信力という面ではかなり持っているの、そのような広報PRと一緒に考えていければと思う。
- ・コロナ対策について、今回は規模を縮小するということでしたが、規模を縮小するからこそ色々ところで徳島の阿波おどりを楽しめる方法が考えられるのでは思っており、大阪万博のモデルとして一大ムーブメントを起こせるようなアイデアを考えられるチャンスだと感じている。

(楠委員)

- ・今年の阿波おどりは、団体は完全にウェルカムなのか、それともあまり推奨していないのか、方向性を伺いたい。
- ・12日にクルーズ船が3隻徳島に来航予定で、一応定員で4000人来られる予定だが、そのあたりはどのような予定なのか。

(事務局)

- ・今年の阿波おどりの団体については、規模は縮小するというので従来より減少しているところであるが、縮小した規模の中で徳島の阿波おどりを選んで頂けるのであればお越しいただきたいと考えている。

- ・現在私どもが伺っているクルーズ船は2隻が来航予定となっており、人数も多いところではあるが、お越し頂けるのであれば、できる限り対応させて頂ければと考えている。

(寺内実行委員長)

- ・コロナがまだ落ち着いてきていないということで段取りが遅すぎるのではというのが本音です。この間までまん延防止等重点措置が全国的に出しており、事務局として、ここまでの段取りを裏方では行っていたと思うのですが、このような会をもっと早くからするべきで、少し遅すぎたと思う。
- ・それでもまた県協会の方をお願いをすると少し広がっていくのでは思う。

(岸田委員)

- ・2019年以前、6年程前から中心市街地にゴミブースを置いて分別啓発等をそれぞれやっていたのだが、今年は屋台の出店はあるのか。

(事務局)

- ・屋台、露店について、出店エリアについては阿波おどりのエリア内に設けさせて頂く計画である。
- ・コロナ禍で踊り連の動線確保や、来場者の密集状態も考慮せざるを得ないところもあるので、出店エリアとしては、エリアの一部見直しや、店舗同士の間隔を多く取るなどの対応が必要な部分もあると考えている。出店数については、過去の状況と比べると減少する可能性も想定している。

(越後委員)

- ・主体が誰であるかによって制限がかかることは理解できる。主体が市である場合は、先程の弱者救済平等という観点で制限をかけることも理解ができるが、その線引きがかなり不明瞭に感じる。その制限を踊りたい人が決めるのであれば、やはり県協会はこの会に入らなければいけないのではと感じた。
- ・栈敷の数が減らすことや、にわか連とか、初めから行わないというのは時期尚早かと思う。

- ・また、コロナのアラート状況によって決めていくことも不明瞭だと感じたので、新型コロナウイルス対応の改正特別措置法に基づく時短営業の命令に対する訴訟などもあるため、この機会に統計学的、医学的にどうなのかを検討できればと思う。

(事務局)

- ・ 棧敷の設営について、今年は有料演舞場 2 カ所から始めさせて頂きたい。
- ・ 一昨年のコロナ禍の中での阿波おどりの在り方について実証実験を行い、また、昨年はコロナ禍での阿波おどりということで、当初は棧敷も開設する計画で進めていたが、コロナの状況が厳しくなってきましたので、ホールでの阿波おどりが主体となり、無観客で陸上競技場からライブ配信とさせていただいた。
- ・ そういったことを踏まえ、今年の夏は屋外の棧敷を開設し、2025年大阪関西万博も控えているので、3年後徐々にフルスペックの阿波おどりができるように準備を進めていきたいと思っている。

(寺内実行委員長)

- ・ 本当はもっと大きくしたいとは思いますが、只今の説明のとおりコロナ対策、全体的なことも考えて一度には難しいと感じている。

(中村委員)

- ・ 規模を縮小している中でも、キリッとしたものがないと規模を縮小しただけではいけないと思う。
- ・ 徳島は本当に川も綺麗で、水の都として観光の人が多く訪れていますから、川の上にひとつステージを作るといえるのはどうか。10メートル×30メートル程の台船を新町橋とふれあい橋の間に浮かべる。その上で踊って頂くと新町橋とふれあい橋の全方向から見る事ができる。県の許可を取ることも大変だが、それくらいのことをしなければ、規模を縮小するだけでは、県外から来た人に見て頂いても感動は少ないと思うので、検討していただきたい。

(杉原委員)

- ・ 中央卸売市場を使い、徳島港のお魚を屋形船で料理として出しながら、よしこのの三味線が入る。そういった昔の屋形船遊びのようなものが阿波おどりにあっても面白いと思う。

- ・普通に阿波おどりが開催されたと仮定して、一番困るのが移動であり、新町橋から両国まで、人がいっぱい歩いて抜けていけない。これで水上交通ができれば、踊り場から踊り場への移動が物凄く楽になるので、川の駅構想というものを早く実現して欲しいと思う。

(寺内実行委員長)

- ・皆さまの意見を聞くことが重要だと考えており、とにかく楽しい阿波おどりにしていきたいと思う。
- ・先程申し上げました事業計画について、事務局において適宜進めることといたしたい。その件について挙手に賛同をお願いしたい。

(一同挙手)

(寺内実行委員長)

- ・皆さんが阿波おどりに力を入れすぎて、少しボタンの掛け違いが色々あったりしたと思っている。十分に皆さんと楽しい阿波おどりになるように計画していきたい。
- ・第1回実行委員会は以上とさせていただきます。